

特集

中部支部会 (2018. 12. 8-9) の報告

～2019 年度年会に向けて～

前田昌志（三重大学教育学部附属小学校）

1. はじめに

2018 年 12 月 8 日（土）、9 日（日）に三重県熊野市の紀和コミュニティセンターにて中部支部会が開催されました。この支部会は、2019 年 8 月に長野県で開催される年会に向けて、キックオフミーティングとしての意味合いをもつものです。当日は 36 名の参加者があり、うち半数が 10 代～20 代という活気あふれる会となりました。幅広い世代の視点からの意見をもって、夏の年会に向けての士気が高まる有意義な機会となりました。

2. 会場について

紀和コミュニティセンターがある三重県熊野市紀和町は、紀伊半島の南部に位置し、名古屋市から車で 3 時間ほどの山間部にあります。鉄道での参加者は、JR 熊野市駅から乗り合わせて会場に向かいました。宿泊については、三重大学東紀州サテライトの協力により、希望する大学生は東紀州教育学舎（熊野市木本町）に無料で宿泊し、それ以外は湯元山荘 湯ノ口温泉（熊野市紀和町湯ノ口）のロッジ、バンガローに宿泊しました。

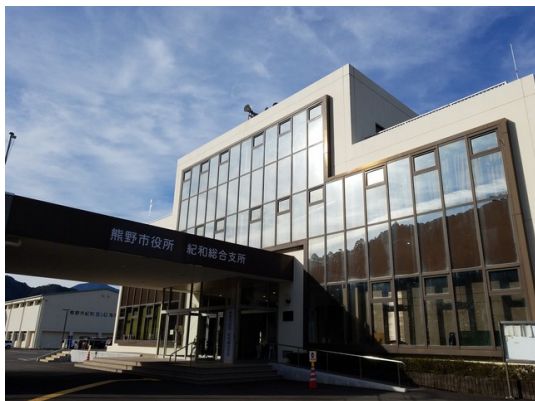


図 1 紀和コミュニティセンター

3. テーマについて

今回のテーマは、「若い世代に届ける天文教育」「観光資源としての天文」でした。

「若い世代に届ける天文教育」には、この会を次世代に引き継いでいきたいという思いが込められています。設立から 30 年を迎える本研究会では、これまでも幅広い世代の方々が、あらゆる方法によって天文の魅力の発信を行ってきました。先輩方が築き上げてきたこれらのノウハウは、次世代に引き継がれるとともに、時代に合わせて更新されていくことでしょう。しかし、本研究会の現状を見ると、次世代を担う若手が必ずしも多いとは言えません。本会が今後さらに発展していくためにも、「若い世代」をキーワードに天文教育を考えていく必要があると考えます。

「観光資源としての天文」には、星空をたくさんの人に楽しんでほしいという思いが込められています。夏に年会が行われる長野県では、「長野県は宇宙県」のプロジェクトが行われています。また、会場の熊野市は、世界遺産・熊野古道とともに、星空も楽しんでもらえる素晴らしい環境にあります。それぞれの地域で、それぞれの楽しみ方があるからこそ、天文を地域おこしとして有効活用する意味があると思います。今回は、熊野市観光協会の協力もあり、公開観望会を通して熊野市の観光名所の星空を楽しんでいただく機会を設けることができました。

4. プログラム

今回はテーマに関連する発表 14 件、一般発表 4 件、ポスター発表 1 件がありました。また、1 日目と 2 日目にそれぞれ年会に向け

たディスカッションが行なわれました。プログラムは以下の通りです（敬称略）。

一般発表

○船越 浩海

（生涯学習センター ハートピア安八天文台）

2019 年お正月の日食を迎え撃ちたい！

○加藤 明音（三重大大学）

発達段階の違いに着目した望遠鏡観察対象への認識の調査

○宮川 祐一（仁愛大学）

天文教育分野の免許状更新講習の実践報告

○矢治 健太郎

（自然科学研究機構 核融合科学研究所）
ごぞんじですか？核融合科学研究所？

ポスター発表

○瀧本 麻須美（坂下星見の会）

親しみやすい天文イベントを目指して

テーマ発表 1：観光資源としての天文

○大西 浩次（長野高専）

長野県は宇宙県、これからの展開へ

○所 卓男（坂下星見の会）

天の川を求めて

○伊藤 信成（三重大大学）

サテライトを拠点とした地域貢献。星空で街を元気に！

○井上 結子（熊野市地域おこし協力隊）

熊野の夜空は日本一暗い？

テーマ発表 2：若い世代に届ける天文教育

○須藤 広志（岐阜大学）

岐阜大学 11m 電波望遠鏡による宇宙教育

○野寺 凜（黒部市吉田科学館）

プラネタリアムドーム内での地学教育番組の上映

○星野 真穂（四日市市立南中学校）

四日市市博物館の移動プラネタリアムの活用

○奥井 喬史（松阪市立久保中学校）

中学校理科における天文教育の実態

～Mitaka とモデル実験を通じた実践から～

○前田 昌志（三重大大学教育学部附属小学校）

新学習指導要領における第 3 学年「かげと太陽の動き」の指導について

○野呂 健吾・中山 将大（三重大大学）

附属小学校と連携した観望会実施報告

○高橋 真聡（愛知教育大学）

愛知教育大学での天文台一般公開活動報告

○加藤 大明（愛知教育大学）

愛教大天文台一般公開における 3D シアター上映の実施状況

○近藤 陸永（愛教大天文愛好会 CORE）

天文愛好会 CORE による天文教育普及活動の報告

○渡辺 謙仁（北海道大学）

コスプレ世代に届ける天文教育・地域のアニメイベントの一コンテンツとしての天文

5. 年会の議論について

1 日目の研究会が始まる前に、実行委員会のメンバーでランチミーティングを行い、年会の場所と費用、交通手段について事前に議論を行いました。研究会の中では、年会の概要、テーマについての議論がありました。以下、議論の内容です。

○予約システムについて

・JTB のシステムを使う。

○日程について

・5 月くらいには募集を開始。

○学生が参加しやすくなるために

・学割を検討してはどうか。

○テーマについて

・最近の若手の参加者が少ない。若い人のニーズをどう掘り起こすか。

・長野県が会場ということで、地域おこしも捨てがたい。

・「天文教育普及研究会」という名前から、学生には敷居が高いように思う。

- ・「教育」というよりは「星を使ったコミュニケーション」をイメージしたい。
- ・インクルーシブ教育的な側面もどうか。
- ・小型衛星を用いた教育。ワークショップでの活動も視野に。
- ・来年 IAU（国際天文連合）100 周年。これに関連付けられないか。
- ・若手にアピールするためにも「若手」というキーワードは入れたい。
- ・見ただけで「若手」を意識できるテーマ。
- ・参加者の中で志賀高原に行こうという意思をもった学生はどれくらいいるか。

→ 大多数の学生が参加の意思をもつ

以上に抜粋したものは、全体のごく一部です。多数の意見が出て、なかなか収束に向かいませんでした。それぞれ大学生が一言ずつ、「若い世代」の視点からの意見を述べていたのが印象的でした。なお、年会についての詳細は、例年のスケジュールに則り順次公開いたしますので、暫しお待ちください。



図 2 年会の議論

6. 観望会について

1 日目の 18 時 30 分～19 時 30 分には、一般市民も参加できる公開研究会を行いました。場所は、丸山千枚田（日本棚田百選）と、赤木城跡（国指定史跡）の 2 か所です。一般参加者は 30 名程度で、研究会の参加者が解説を行うという光景が見られました。なお、熊野市観光協会からプレスリリースを行い、地元紙 2 紙に事前に情報が掲載されました。

7. おわりに

熊野市での支部会開催を快く引き受けていただき、熱心に準備いただいた熊野市地域おこし協力隊の井上さん、現地世話人の三重大学の伊藤さんをはじめとする支部会実行委員の皆様には、感謝の念に堪えません。この場を借りて改めて御礼申し上げます。

また、長野県で行われる 2019 年度年会に向け、関係の皆様には引き続きお力添えいただきたく思います。よろしくお願いいたします。

主催：(一社) 日本天文教育普及研究会 中部支部
後援：熊野市観光協会

**星の専門家がやってきた！
星降る熊野の観望会**

2018年12月8日(土) 18:30～19:30
@熊野市紀和町 丸山千枚田・赤木城跡
参加無料

※雨天・曇天時 講演会
「宇宙を見つめる～星を見るとは・星を撮るとは～」
講師：大西 浩次氏(長野高専)
18:30～19:30 @紀和コミュニティセンター

・この観望会は、「天文教育普及研究会 中部支部会」の開催にあたって、熊野市観光協会の後援のもと、開催されます。
・夜は厳しい冷え込みが想定されます。厳重な防寒対策のもと、お越しください。
・現地集合となります。駐車場は、近隣の迷宮にならないよう、お願いいたします。
・車のライトが星空観測に影響するため、途中参加・退席はできません。
・一眼レフカメラをお持ちの方は星空が撮影できます。
ご自身の責任のもと、ご参加ください。

参加申し込みはこちら
<https://goo.gl/forms/PUGU59Q1IXriWwd02>
お問い合わせ：前田 (masajixxx@gmail.com)

※日の開き次第もこちらのURLから

図 3 観望会ポスター



図 4 集合写真